

3年道徳通信

第16号

第16回『電話番』

1993年、北海道南西沖で発生した大地震で、奥尻島は最大29メートルもの津波に襲われました。避難所で被災者の安否や状況を尋ねる「電話番」なら自分でもできると思いついた絢子は、クラスメイトにも声をかけて「電話番」を始めます。名前を呼ばれた被災者は生徒たちの元に駆けつけ、電話が終わると満足げに生徒たちに笑いかけます。不安で重苦しかった避難所の雰囲気、名前を呼ぶ中学生の元気な声が響くようになってから、少しずつ明るくなりました。社会に積極的に関わることは、みんなの役に立ったり喜んでもらったりするためだけでなく、自分の生きる力にもなる、そのことに気づいた内容でした。

みんなの意見

人々のために働く一方で、勉強に真剣に取り組み始めた理由は？

- 勉強が普通にできることにありがたいと気がついたから。
- 自分のこともしっかりしないといけないと思ったから。
- 人助けを理由に勉強をいい加減にしなくなかったから。

「明日への希望」につながる行動とは？

- 人の役に立つこと。
- 今自分ができることを率先してする。
- 避難所にいる全員が笑顔になってほしい。元気になってほしいという気持ち。

感じたことや思ったこと

- 人任せではなくて自分にできることを積極的にすることが大切だと思った。
- 前向きに明るくがんばりたい。
- どんなに苦しい状況でも「人を助ける気持ちと行動」が必要なことがわかった。そうすればいい状況に変わるはず。
- 自分がしたことで人が元気になっていいなと思ったし、自分も絢子みたいに人の役に立てるようになりたい。
- 人のために何かをしたら、その人だけじゃなくて自分にも良いことが返ってくると思った。文化祭もクラスメイトの気持ちを考えて取り組みたい。
- どんな状況でも自分にできることを精一杯したい。



**社会の一員として自分から様々なことに
関わっていくために大切なのは、どんな
心だろう。**

